



吉田の決断と、歪んだ東京の日常

環状線 シャークトレス



——海の匂いがする。



吉田。
普段は口数が少なく、
危険を察すると
黙り込むタイプだ。



雨上がりの東京。
湿ったアスファルトの匂い。
誰もが「いつもの遅延」程度の
程度の不安しか持っていない。

ガヤガヤ……

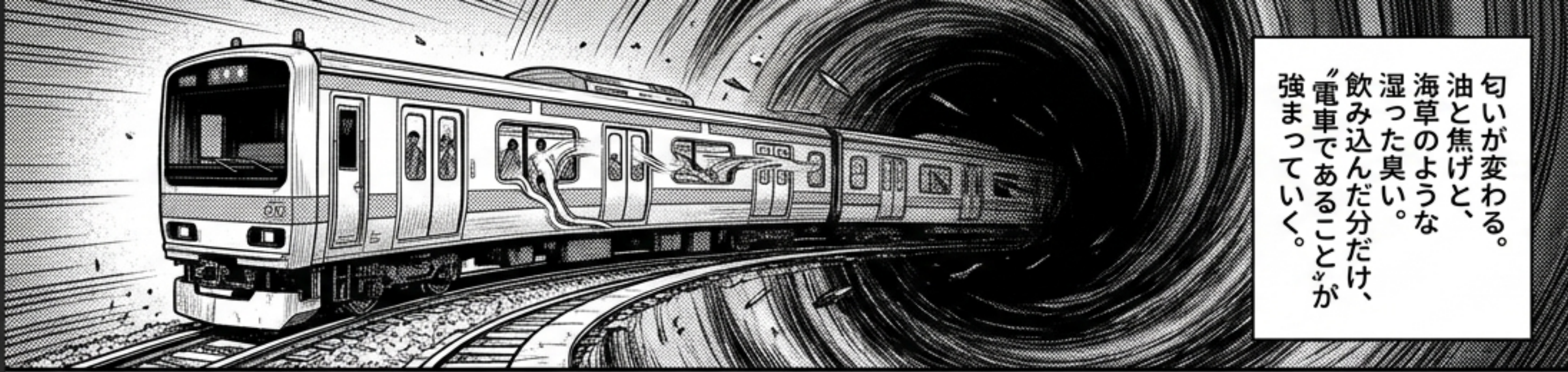
あれ、線路の中…水？

サメ——いや、
“電車の形”を
かき混ぜた生物
生物だった。

電車を止める！
全員、下がって！



鳴ったのは
“止めるたの音”ではなかった。
電子的な悲鳴。
列車が水面の餌を追うように
ように吸い込まれていく。



匂いが変わる。
油と焦げと、
海藻のような
湿った臭い。
飲み込んだ分だけ、
「電車であること」が
強まっていく。



「環状線の外に
出たら……
全部、終わりだ」



「ごめん……でも、
止めるんじゃない。
飲ませる」

「制限運転」の
設定。

環状線の列車が
追いつけないほどの
の間隔調整。

獲物が定期に
目の前を通る
構造を作る。



限界速度で
での追跡

円の中で
閉じ込めれば、
最後尾の列車だけを
永遠に食い続ける。

減速地点Ⅱ
固定された餌場

GRUNCH

【注意】環状線は通常運転。
シャークトレイン対応のため、
係員の指示に従ってください。

「今日も
食べる時間ね」

東京の
通常運転

【平常通り】いつもの遅延

パニックは音を失い、恐怖は薄い毛布をかぶる。



……また明日か

シャークトレインは環状線の中で、
永遠に食い続続ける。
東京はそれに慣れていく。
ひとつの奇妙な日常として。

ゴォォ...